

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「ゆっくり、楽しく過ごしましょう」を全職員が日々確認し合いながら、ひとりひとりのペースに合わせ支援している。	法人理念、ホーム独自の理念は、スタッフルームの窓口と各ユニット入り口に掲示して、共有と実践に繋げている。月1回のセクション会議で実践状況を振り返るとともに「ゆっくり、楽しく過ごしましょう」の理念に沿える様に日々の支援に取り組んでいる。家族には利用契約時に、法人理念及びホーム独自の理念について説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的なボランティアの受け入れはこれからであるが、先日久しぶりに行事の際に受け入れ交流している。また地域に散歩に出かけることで地域の人、子供達とも関わりを持てている。	開設以来区費を納め、地域に開かれ親しまれる施設として活動を続けている。コロナ禍の影響で地域行事が未だ再開されていないが、日々の散歩の際には近隣住民の皆さんや法人内の保育園児と親しく挨拶を交わしている。また、防災訓練の際には、運営推進会議の構成メンバーでもある地元の消防団の方に参加して頂いている。今後はホームの行事に音楽演奏ボランティア等の来訪も予定している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域包括支援センターにて、介護者の集いや相談会に出席し、理解や啓発に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用状況、実績報告、事故、ヒヤリハットの報告、全体を通しての総括を報告し、意見、質問などいただき返答している。	コロナ禍中は書面での開催が続いていたが、5類への移行後は対面での運営推進会議を再開した。区長、家族代表、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域消防団員、ホーム関係者が出席して奇数月に開催している。利用者の状況、活動予定、活動、事故ヒヤリハット等の報告、意見交換等を行ってサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢者活躍支援課の職員、地域包括支援センター、民生委員、地域代表の方々に取り組みを伝えながらご意見を聞くと共に、協力を頂いている。コロナの影響で中止となっていた、あんしん相談員来訪の再開は12月頃となっている。	市高齢者活躍支援課とは事故・ヒヤリハットの報告や様々な情報を共有して連携を図っている。介護認定更新調査は市の調査員が来訪し、ホーム長が対応している。コロナ禍で中断していた「あんしん相談員」の来訪が12月より再開される予定になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待について法人研修で学んでいる。また身体拘束委員会に職員が出席し、ケア会議にて話し合い、職員全員に周知している。	法人の方針として身体拘束の無い支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。帰宅願望の強い利用者が数名いるが、本人の話を良く聞いたりして、気を紛らわせる様にしている。毎月のセクション会議で身体拘束適正化委員会を行うと共に、年に2回身体拘束に対する研修会を行って、拘束に対する意識を高め、日々の支援に取り組んでいる。また、毎月本部の老人保健施設で行われる身体拘束・虐待防止の委員会にも出席して、委員会の内容をホームに持ち帰り徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加し、日常業務の中で虐待とみなされることが起きていないか、職員間で互いに見過ごすことのないようにし、又ケア会議の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回のセクション会議にて、議題として学ぶ機会を設けている。また、必要に応じ管理者、職員、関係者と話し合い支援している。指針を掲げ、指針に基づき日々の支援にあたっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時不安のない様説明し、理解、納得をいただいている。ご家族の気持ちも聞き、寄り添う対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会や、行事への参加の際に、ご意見、ご希望などを確認して、反映出来る様、ケア会議の場にて話し合っている。	家族の面会は、事前に連絡を頂いて15分位を目安に玄関内などで行っている。誕生日や母の日には「お花」や「洋服」等のプレゼントを持って来訪している。また、今年は5月の母の日を兼ねた「感謝の日」と9月の「敬老会」に家族をお招きして、10家族が利用者と共に過ごされた。そうした中、ホームでの生活の様子は2ヶ月に1回発行する「コスモ通信」で知らせるとともに利用者個々の様子は担当職員が「生活記録」としてお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のセクション会議にて、職員からの意見や提案を皆で検討し、ホーム長会議で発表し反映させる機会を得ている。また、年に二回の自己考課・評価があり、それにつなげて個人面談をしている。	月1回セクション会議を開催している。利用者個々のカンファレンス、法人のホーム長会議の報告、活動計画、活動報告、事故・ヒヤリハット報告、日頃感じている事の話し合い、意見交換等を行っている。法人として人事考課制度があり、職員は年間の自己目標を設定するとともに年に2回自己評価を行った後、管理者と個人面談を行い、意見交換機会となっている。また、年に1回職員対象にストレスチェックが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行う機会が年に2回あり、実績や努力を代表者に伝える事が出来ている。また、必要に応じ面談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修には全職員が出席出来る様になっている。職員の希望、経験年数に応じてweb研修を含め参加してもらい、その内容を皆で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区ネットワークに加入しており、機会を利用し、研修会や取り組みなどの交流がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時より、困っている事、不安に思っている事等、本人の気持ちを聴き、安心できる居場所作りに努めながら、職員間で情報を共有し、安心していただける関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時より、ご家族の困りごとや不安、ご希望を聴き、ホームで出来ることを伝え、ご家族の協力をいただきながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時に本人やご家族が望む暮らしを聴き、必要な情報を聴取しながらご本人に合ったサービスを見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員の生活の場であるという意識を持って、本人の希望を聞きながら食事作り等の家事しながら、日々の生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、生活記録などを通して様子を伝え、必要があれば電話、文書で確認を取っている。又、施設サービス計画書を返送時にもご意見、感想などいただき、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人などからの手紙や電話等に協力し、支援している。馴染みの場所への外出の希望があれば、対応している。	お盆などに家族から連絡の有る親戚、兄弟等の面会がある。生活必需品等は希望をお聞きして職員が買い物を代行している。訪問美容師が3ヶ月に1回来訪して、音楽を流し、会話を楽しみながらカットを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し、コミュニケーションを図っている。新聞読みや雑談を通し共通の話題を提供したり、席替えや入浴順序などの工夫で楽しく過ごしていただける様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話で、その後の様子を確認したり、またホームへのお立ち寄りの声掛けをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の望んでいることや、気持ちを把握し、本人や職員と検討し実現できるよう努めている。又、困難な場合でも可能な限り、本人の希望に近づくことができるよう検討し努めている。	自分の希望などを表出できない方が数名いるが、職員は問い掛けに対する表情の変化等から思いを受け止めている。他の利用者は自分の希望を表出できる状態であり、「飲み物」や「洋服選び」等二者択一の提案も含めて意向に沿える様な支援に繋げている。気付いた言動等はタブレットのケース記録に纏めて、情報を共有し申し送り時に確認し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用されていた施設などからの情報提供や、ご家族との面談による情報入手、また日常の会話の中からも情報収集し、職員全員に説明し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、朝礼、終礼にて職員が把握している。変化があれば適宜その場で話し合い対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望を伺い、本人の現状と合わせた介護計画を作成している。課題についてはケア会議で各自意見を出し合い検討している。	職員は2名の利用者を担当し、居室管理、生活記録の作成等を行っている。月1回のセクション会議で意見を出し合ってモニタリングを行い、家族の希望も加味しながらホーム長がプランを作成している。入所時は事前にお聞きした情報を基に1か月の暫定プランを作成し、様子を見て短期目標3ヶ月のプラン作成に繋げている。3ヶ月毎に見直しを行い、状態が安定している場合は基本的に3ヶ月を目安に見直ししている。状態に変化が見られる時は適宜見直しを行い、利用者個々に合ったケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、記録として個々の様子や言動の事実、気づいた事を記録し、申し送りにて情報共有し、見直しが必要な場合には話し合いをして実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健の相談員や、理学療法士、歯科衛生士などに意見をもらい、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をしながら近所の公園、田畑などで地域の方を会話したり、ホームで野菜を育てながら会話を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとり、訪問診療、24時間対応をしているが、本人や家族の希望ある時は、主治医に紹介状を書いてもらい、通院にも付き添っている。	入所時に医療機関について希望を伺いホームとしての取り組みを説明している。全利用者が法人内のクリニック医師の各月1回の全体往診と個別往診往診を受けている。また、ホームからの連絡に応じて看護師が来訪して、利用者の健康管理とともに医師と連携を図り、万全な医療体制を整えている。そうした中「眼科」等の専門医の受診は基本的には家族が対応している。歯科は必要に応じて協力歯科医が往診している。合わせて法人の歯科衛生士が月に1回来訪して、口腔ケアの指導を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導を基に毎日の健康チェックを行い、利用者の状態を把握しクリニック、訪問看護、薬剤師と相談しながら診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護情報を提出し、経過はご家族、又は病院のソーシャルワーカーより聞き、連携室と連絡をとり合い、退院後の支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針について説明している。重度化の状態によりその都度、ご家族と話し合いを行い、ホームで出来ること、出来ないことを説明し、同意をいただいている。	重度化した際の指針が有り、利用契約時に説明して同意を頂いている。重度化を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設けて、ホームとして出来る事、出来ない事の説明を行っている。医師立会いの下で、再度家族の意思確認をした上で支援に取り組んでおり、この数年間で数名の看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健の救命救急内部研修で学んでいる。またホーム独自でも、セクション会議の場で皆で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、日中と夜間に分けて、防災訓練（火災、水害）を実施している。また、推進会議にて地域の消防団員の参加もあり、意見をいただいている。災害に備え、お米、水等備蓄もしている。	消防署へ届け出の上で、年に2回防災訓練を行っている。5月には運営推進会議の構成メンバーの地域消防団員の参加を頂いて、日中の火災を想定して利用者全員を誘導しての避難訓練、訓練用消火器を使用しての消火訓練、通報訓練を行った。10月は夜間の火災を想定して、夜勤スタッフ2名の行動、連携確認訓練、利用者を誘導しての避難訓練、消火訓練、通報訓練、緊急連絡網を用いて応援職員の駆けつけ時間の確認等を行った。「米」「水」「カップ麺」「介護用品」等を備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は必ずノックし、本人の了解を得てから入室している。尊厳を守り、ゆっくり丁寧な言葉がけをしている。	言葉使いに気を配って、利用者の言われる事をよく聞いて利用者のペースに合わせて声掛けをする様に心掛けている。また、トイレ介助は周りに分からない様にお誘いしている。基本的には苗字を「さん」付けでお呼びしているが、同じ苗字の方がいる場合は下の名前お呼びしている。合わせて入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けをしてプライバシーに配慮した支援に繋げている。更に、年1回権利擁護の研修会を行って意識を高めて日々の支援に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの声がけを多くし、本人の思いや望みを話しやすい環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や一日の流れはあるが、利用者の気持ちややりたい事を優先し、希望に沿った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際に、本人に希望を聞きながら気候に合った衣類着用の声掛けをしている。また訪問美容師により、本人の希望に沿って調髪をしてもらっている。週1回爪切りも行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の関する事について、出来る事を確認しながら、下処理など職員と一緒にやっている。献立もその季節や希望に合わせ、楽しい食事となる様支援している。	一部介助が必要な利用者が若干名いるが、他の方は自力で食事が出来る状況である。法人の管理栄養士が立てた1週間分の献立を職員がアレンジして調理している。利用者が野菜の下処理、お茶入れ、配膳、下膳等積極的に楽しみながら手伝いに参加している。また、お彼岸には「おはぎ」、雛祭りには「ちらし寿司」、5月には「竹の子料理」、夏祭りには「たこ焼き」、クリスマスには「一口ケーキ」等特別食を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に基づいた、バランスの良い食事を提供できている。状態に応じた食形態の食事提供もできている。飲み物は好みの物を聞き、提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受け、毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態、義歯の状態を把握し、清潔保持できるよう支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の利用者の様子や時間で、適切なトイレ誘導や声がけで、排泄で不快を感じることのないよう支援している。	排泄は自立の方が半数弱、一部介助の方が半数強の状況である。職員は利用者個々の状況は把握しているが定時の声掛けに合わせ排泄表も参考にして、早めにお誘いしている。排便については3日間無い場合はコントロールを行っている。「お茶」「牛乳」「スポーツドリンク」等で1日1200～1300ccの水分摂取を進め排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で個々の排便の有無を確認し、水分補給や体操をしている。また主治医に相談し、内服薬にて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回で入浴日も決まっているが、希望があれば、他の階での入浴も可能となっている。入浴剤や季節を感じてもらえる物を入れている。歌を唄うなど入浴を楽しんでいる。	全利用者が何らかの介助が必要な状況である。基本的には週2回の入浴を行っている。入浴拒否の数名の方には曜日や職員を替えて入浴して頂いている。入浴剤使用に合わせて、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。また、入浴後は水分摂取を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加の声がけをしているが、自由に休息はとっていただき、体調などに合わせ室温・照明など居室環境の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明書を確認し、体調管理をしている。一人一人の内服している薬の内容を理解し、内服を確認すると共に体調管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな食べ物は何か、何をしたいか等、日々の会話や表情から感じ取ったりしながら楽しみごとを探って、満足感を得られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、外気浴、地域への散歩にと出かけている。季節を感じられるよう、可能であれば、車を借りてのドライブも計画している。	外出時は見守り自立歩行が半数弱、杖、歩行器使用が数名、車いす使用が数名の状況である。天気の良い日には広い敷地内を散歩したり、法人内の保育園児との交流を楽しんでいる。また、玄関前や陽当たりの良いホーム南側のベンチに腰掛けて外気浴も楽しんでいる。コロナ禍も落ち着き、季節に合わせた外出も少しずつ再開し、春のお花見や秋の紅葉見物にドライブを兼ねて出掛けている。今後は、コロナの感染状況も見ながら、お祭り見学や善光寺への参拝等にも出掛けたい希望を持っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており、必要な時は本人と一緒に買い物へ行き、希望があれば会計、支払いをしてもらっている。職員が代わりに買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話し合い、手紙や電話の取次ぎ等、希望に沿った支援をしている。行事の様子の写真を家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境に努めている。室温・湿度・換気に注意し、快適に過ごせるよう、冷暖房にて調節している。季節に合った飾りつけをしたり、花を植えたりと、季節を感じてもらっている。外出時の写真を貼るなどしている。	開設24年目を迎えた当ホームであるが、掃除が行き届き清潔感溢れる中で日々の生活を送っている。ホームの南側には家庭菜園があり、野菜の水やりや収穫を楽しんでいる。玄関を入ると職員手作りの季節の飾りが飾られている。食堂兼ホールの壁には利用者のはり絵、ぬり絵、押し花等が数多く飾られ活動の様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いに過ごしている。会話などから笑い声も聞かれている。自由に休息したり利用者同士で相談したりと笑顔や笑い声も聞かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の馴染みの物を置いてもらっている。本人や家族と相談し、希望に沿っている。居室入り口には季節に合った飾りつけをしている。	十分な広さが確保された居室は大きなクローゼット、洗面台が完備され、暮らしやすい造りとなっている。持ち込み物は自由に家族と相談の上で、テーブル、イス、テレビ等が持ち込まれている。家族の写真や職員から贈られたお祝いメッセージ色紙やご自分の作品に囲まれて自由な日々を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士の出来る事、分かる事を思いやる気持ちを大切にし、安全な生活への自立支援に努めている。		